



喜小だより



令和3年9月3日発行

発行者 齋藤孝之

自ら学ぶ子 思いやりのある子 健康な子

一人一人がきらきら輝く喜連川小学校

子どもたちの笑顔と元気のために（コロナ禍での細心の注意）

学校の畑で育てている5年生のヘチマの花です。大きく開いた黄色い花びらが、空の青さの中でひときわ大きく感じさせています。

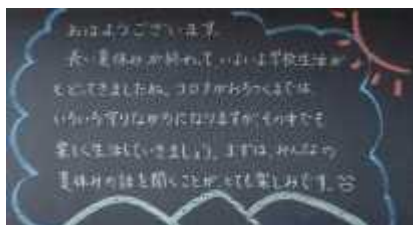
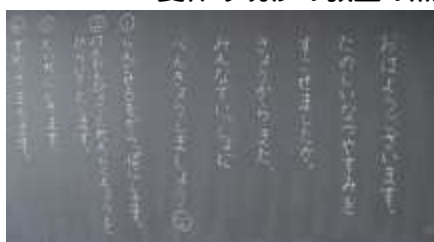
さて、栃木県に新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言が発令される中での、夏休み明け、学校再開となりました。保護者の皆様には、急な夏休みの延長、臨時の給食後下校等に対応していただきありがとうございました。また、スクールバスでの登下校も、バスを2往復しての分散方式をとらせていただきました。人数を減らすことと乗車時間を短縮することで、少しでも感染リスクを減少させるための処置です。子どもたちの安全・安心のため、ご協力くださいますようお願いいたします。

夏休み明けとなった30日（月）、夏休み明け集会をリモートで行いました。まず、夏休み中に大きな事故が無く無事に過ごせたことを褒めました。その上で、新型コロナウイルス感染症が拡大していることから緊急事態宣言が発令されていること、今回のウイルスは変異ウイルスであり感染力は2倍であること、ワクチンを打った人でも感染するので家族内での感染が増えていること、子どもたちにも感染し場所によってはクラスターも発生していること、今が一番の危機的な状況であることを伝えました。そして、感染の仕方と感染しないための対策を確かめ、しばらくは夏休み前のような活動はできないこと、一人一人が感染しないように高い意識をもって行動することについて話をしました。ただ、学校は学習をする場であり、新型コロナウイルス感染症への対応と学習を両立させなければなりません。そこで、しばらくは「自分たちの命を守る行動をしながら、自分たちの将来を創る活動を継続する」ことをめあてにしていくことを伝えました。

30日の下校時、子どもたちに「気をつけて帰るんだよ！」と声を掛けていました。子どもたちは、元気に笑顔で「校長先生さようなら、また明日」と挨拶をしてくれます。こんな子どもたちの元気や笑顔を守っていきたくと改めて思いました。



夏休み明けの教室の黒板 8月30日（月）



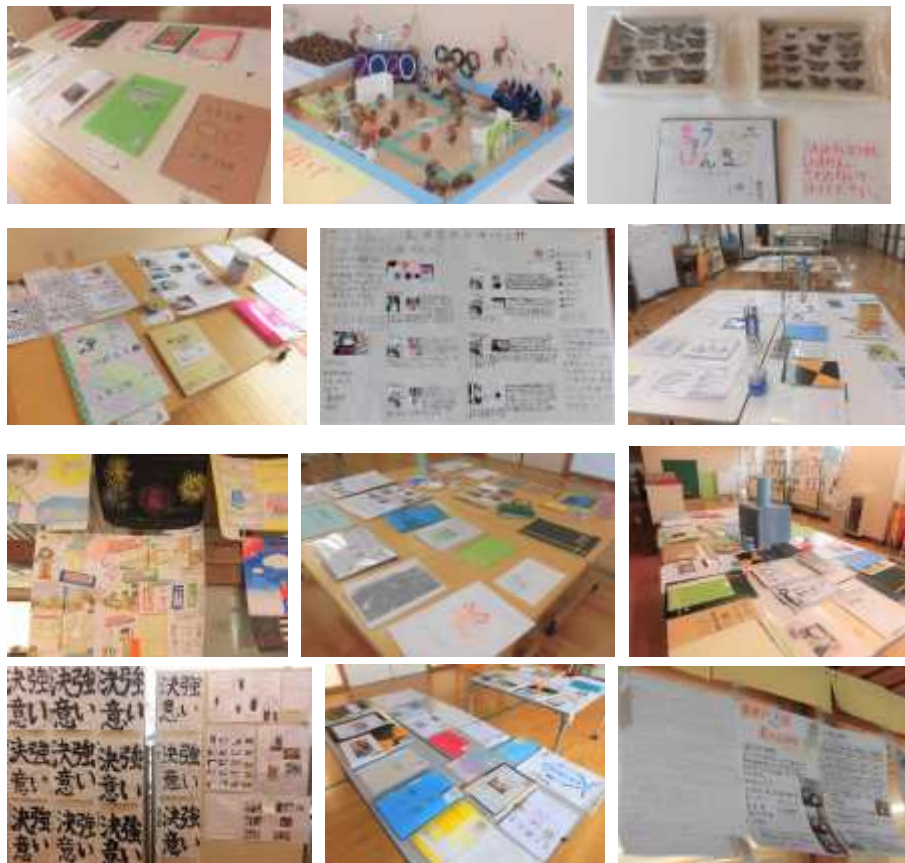
夏休み明け集会 8月30日

リモートによる夏休み明け集会です。1年生と5年生の2名の転入児童の紹介をした後、学校長の話をしました。みんな真剣に聞いていました。



夏休みの作品～子どもたちの頑張る姿が見えます～

夏休み中、子どもたちはいろいろな課題にチャレンジしました。今、各学年の廊下には、夏休み中の学習の成果が所狭しと並んでいます。作品を見ると、子どもたちの頑張る姿が見えるようです。



防災の日の給食9月1日(水)

9月1日(水)は防災の日です。この日の給食は、非常食「救急根菜汁」を取り入れた献立でした。子どもたちは興味津々に、スプーンで食べていました。防災の意識を高める機会になりました。



喜連川小学校の
ホームページです。
ぜひご覧ください。

挨拶いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい

校庭の奥に鎮座する田中稲荷神社

本校の校庭の一角に神社があることをご存じですか。けっこう昔ではありますが「ナニコレ珍百景」というテレビ番組で「神社がある学校」として紹介されたことがあります。

この神社は、「田中稲荷神社」と言い、豊遠賀比賣命(みこと)を祀っています。ただ、豊遠賀比賣は、日本書記にも見当たらないため、どんな神様なのかは不明です。喜連川尋常高等小学校が昭和6年の火災の際にこの地に移転されましたが、稲荷神社はすでにこの場所に鎮座(この神社は持ち主がおり私有地です。)しており、参道などは校庭に寄附されました。昭和56年には、謝辞の石碑が建てられています。鳥居から一直線西に御丸山公園のタワーが見え、とてもきれいな風景になっています。きっと昔はお城が見えたのでしょうか。

この田中稲荷神社ですが、私は、教頭であった頃からの毎朝の習慣で、神社の前に行き「今日も、子どもたち、保護者、先生方が無事で過ごせますように見守ってください。(今は、新型コロナウイルス感染症からも守ってくださいを加えています)」とお願いをしています。今のところ、子どもたちや先生方に関する大きな事故等がないので、御利益があるのだと信じています。

2月初午の祭事(新型コロナのため縮小して実施)で「御朱印」をいただきました。

